

## 協働推進モデル事業計画書

※記載が複数ページにわたっても良いので、できるだけわかりやすく具体的に記載してください。ただし、この企画書はA4サイズ4ページ以内で作成してください。

提案団体名	団体名	特定非営利活動法人 ポケットサポート 代表 三好 祐也 (担当者 山口そのえ)			
	合同提案団体 (*協議体・実行委員会等で提案される場合は構成団体をすべて記載してください。)				
協働する岡山市の担当課等と担当者	課名	健康づくり課		電話	086-803-1271
	担当 2名	職名	保健師	職名	係長
		氏名	那須 潤子	氏名	富岡 幸栄
提案事業の名称	慢性疾患を抱える子どもの自立を目指す学習・復学支援および交流を支援する場 「ポケットスペース」				
提案事業の目的	病気の子どもが将来への希望を持って生活できるようになる。 またそのための地域・社会づくりを目指す。				
解決をはかりたい課題の緊急性・重要性等(市民ニーズ含む)  ※ニーズ把握等を行った調査資料等がある場合は添付してください。	<p><b>1. 解決をはかりたい課題と現状</b> 厚生労働省の(平成25年~調査)によると慢性疾患を抱える小児対象者数は全国で10万8,790人に上る。岡山市でも約800人の子どもたちが対象になっている。慢性疾患を持つ子どもや若年成人の成長を助け、患者が社会で自立できるように支援する取り組みにも大いに改善すべき余地があると、同省からの報告もある。平成26年度に岡山県の依頼により小児がん医療チームで院内学級に通ったことのある小児がんに罹患した子ども40名に行った調査の中でも、復学の重要性が認められ、入院中だけでなく退院後も支援を行う必要性が明らかになった。現在、岡山市内には4施設6学級の入院中の子どもが通う院内学級があるが、すべての施設に設置されているわけではなく、また退院後は通級することはできない。病気を理由に長期欠席している子どもは、26年度の岡山市の調査によると、小学生247人、中学生243人であった。医療制度改革により入院期間は短縮されているため、抗がん剤投与の合間や手術のための検査待ちの期間など、数週間でも退院し、外来通院しながら過ごすため、復学はできず、院内学級に通うこともできない状況が発生する。また、院内学級は義務教育のみのため、高校生の年代に対しての支援はなく、小児慢性疾患の対象となる年齢すべての子どもたちへの学習・復学を含む自立支援が望まれている。</p> <p><b>2. 市民ニーズ</b> 任意団体としての4年間にわたる活動を通し、子どもたちや保護者から学習や復学への相談に応じる中で、長期の治療にともなう社会体験の不足が明らかになった。また地域や社会においては、慢性疾患を抱える子どもの環境について理解がまだ浸透しておらず、彼らが安心して過ごすことのできる社会を作るための啓発が必要である。慢性疾患の子どもは、内部障害での苦難が気づかれにくく、胃腸障害や心肺機能の低下、持続する疲労感や倦怠感などのため生活のしにくさを感じている。彼らが将来への希望をもって生活できるための相談支援や感染予防に配慮したバリアフリーな環境の整備、療養中の場に訪問しての支援活動などが必要である。</p> <p><b>3. 課題解決の方策</b> 現状の課題を解決するために、厚生労働省は平成26年度に「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」を法整備化し、各都道府県と政令指定都市、中核市に事業を行うための整備を整えている。本団体は任意団体の頃からこの事業に準ずる活動を4年間行ってきており、この制度を利用することにより、さらに多くの病気を抱えた子どもの病状に合わせた支援が可能となるが、現在の岡山市では事業を実施するには整備された環境スペースが無く、すぐに事業を受託することは難しい。そのため前項に上げた市民ニーズを協働事業という形で再確認し、岡山市独自の地域ニーズを取り入れることにより、岡山市に最も適した事業形態を構築する。加えて啓発活動により地域や社会の理解が得られることで慢性疾患を抱える子どもの生活の質が向上する一助となる。</p>				

<p>協働の必要性 及び効果と目標  (協働の役割分担を含む)</p>	<p>1. <b>協働の必要性和相乗効果</b>        小児慢性特定疾患児童等自立支援事業を将来的に実現することを目的としているため、担当課とニーズの確認や予算の吟味など、実態と制度づくりを同時に実施したいと考えているため。</p> <p>2. <b>提案団体が果たす役割</b>        弊社法人はこれまで4年間、病気の子どもたちの支援を現場で実施してきた。この事業内容は小児慢性特定疾病児童等自立支援事業と同じないしは近い事業を行っているため、これらのノウハウを提供するとともに、教育・医療・福祉・行政等の関係者や子どもとその保護者をつなげ、地域に根ざした事業となるようそれぞれのニーズや事情を踏まえた事業構築の提案を行う。        任意団体からのノウハウを活かし、慢性疾病を抱える子どもたちへの直接的な学習・復学支援を行い子ども同士の交流ができる環境を提供する。また、啓発活動により慢性疾病を抱える子どもの支援の必要性について理解が深まり、より良い支援が行なわれる一助となる。</p> <p>3. <b>岡山市の担当課等が果たす役割</b>        当団体と慢性疾病を抱える子どもの自立支援の連携が取れるよう図ることで、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の事業を実施するための提携を行う準備を行うことができる。</p> <p>4. <b>期待する事業成果・目標値等</b>        学習・復学・交流支援を必要とする子どもが何人いて、どのような支援を希望しているかを段階的に把握することができる。        退院後も通級可能なスペースの設置により30名/年の子どもたちへの学習支援を行う。学習支援を受けた利用者の声を6月、9月、12月、2月に確認し、次年度以降の活動に向け、より良い支援の充実を図ることができる。        病気の子どもの環境理解についての講演会を1回/年開催し、100名程度の方の参加を得ることで、活動者の増員、社会への理解を深めることができる。また参加者の意見を聞き、市民の現在の意見や今後理解したい内容を知ることができる。        次年度以降、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の事業実施主体として、岡山市から任意事業の委託を受けられる活動を行う。</p>
---	--

事業の内容	<p>慢性的な疾病を抱えるため、学校生活などで教育や社会性の涵養に遅れが生じ、自立を阻害されている児童などについて必要な支援事業を行う。</p> <p>① 長期入院にともなう学習の遅れなどについての学習・復学支援          ② 院内学級を有しない岡山市内の総合病院に入院中の子どもの学習環境調査          ③ 病気の子どもたちの環境理解のための講習会や講演会</p>													
事業の実施体制	<p>1. 総括責任者 ポケットサポート代表 三好祐也</p> <p>2. 個別事業責任者 ポケットサポート事務局 山口そのえ</p> <p>3. 事業実施にあたっての専門性やノウハウ          ポケットサポートスタッフは病弱児経験者が4名おり、慢性疾病を抱える子どもの置かれている状況や気持ちの理解が十分できる。また、ポケットサポート理事には院内学級教員経験者で特別支援学校教員現職の者や大学病院看護師経験者で看護大学教員現職の者が在籍しており、教育機関、病院機関との連携も充分取ることが可能である。          ポケットサポートでは入院中の子どもの学習支援事業に岡山県内の大学生ボランティアを募り27年8月より継続的に毎月6～7回のペースで活動をしている。子どもの病状や心理状態を理解したボランティアの育成にもあたっている。現在登録大学生は、岡山大学生及び就実大学生計15名である。</p>													
事業スケジュール	<table border="1" data-bbox="491 763 1441 1319"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>実施事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年5月</td> <td>学習支援フリースペースを試験運用する。</td> </tr> <tr> <td>28年6月～ 29年2月</td> <td>慢性疾病を抱える子どもが安心して通えるフリースペースを開講する。</td> </tr> <tr> <td>28年8月</td> <td>慢性疾病を抱える子どもへの学習支援活動について講演会を開催する。 昭和大学院准教授 副島 賢和 先生・岡山大学名誉教授 小田 慈 先生をお招きし、講演会（1回）を開催する。</td> </tr> <tr> <td>28年6～8月</td> <td>院内学級を有しない市内総合病院に入院、通院している患児の学習環境調査を行う。 長期療養中の子どもを対象に「学習環境への要望」「友人等の交流状況」「困りごとや必要な支援」について聞き取り調査を行う。調査にあたって、主治医の許可のもと、調査の説明を行ったのち、保護者の代諾と子ども本人の承諾が得られた方にのみ調査を行う。調査中は子どもと保護者の気持ちや子どもの体調に十分な注意を払い、問題が発生しないよう、主治医と連携し、前もっての対処しておく。</td> </tr> <tr> <td>28年8月～ 29年2月</td> <td>必要に応じて院内学級を有しない市内総合病院で学習支援ボランティア活動を行う。</td> </tr> </tbody> </table>		月	実施事業内容	28年5月	学習支援フリースペースを試験運用する。	28年6月～ 29年2月	慢性疾病を抱える子どもが安心して通えるフリースペースを開講する。	28年8月	慢性疾病を抱える子どもへの学習支援活動について講演会を開催する。 昭和大学院准教授 副島 賢和 先生・岡山大学名誉教授 小田 慈 先生をお招きし、講演会（1回）を開催する。	28年6～8月	院内学級を有しない市内総合病院に入院、通院している患児の学習環境調査を行う。 長期療養中の子どもを対象に「学習環境への要望」「友人等の交流状況」「困りごとや必要な支援」について聞き取り調査を行う。調査にあたって、主治医の許可のもと、調査の説明を行ったのち、保護者の代諾と子ども本人の承諾が得られた方にのみ調査を行う。調査中は子どもと保護者の気持ちや子どもの体調に十分な注意を払い、問題が発生しないよう、主治医と連携し、前もっての対処しておく。	28年8月～ 29年2月	必要に応じて院内学級を有しない市内総合病院で学習支援ボランティア活動を行う。
月	実施事業内容													
28年5月	学習支援フリースペースを試験運用する。													
28年6月～ 29年2月	慢性疾病を抱える子どもが安心して通えるフリースペースを開講する。													
28年8月	慢性疾病を抱える子どもへの学習支援活動について講演会を開催する。 昭和大学院准教授 副島 賢和 先生・岡山大学名誉教授 小田 慈 先生をお招きし、講演会（1回）を開催する。													
28年6～8月	院内学級を有しない市内総合病院に入院、通院している患児の学習環境調査を行う。 長期療養中の子どもを対象に「学習環境への要望」「友人等の交流状況」「困りごとや必要な支援」について聞き取り調査を行う。調査にあたって、主治医の許可のもと、調査の説明を行ったのち、保護者の代諾と子ども本人の承諾が得られた方にのみ調査を行う。調査中は子どもと保護者の気持ちや子どもの体調に十分な注意を払い、問題が発生しないよう、主治医と連携し、前もっての対処しておく。													
28年8月～ 29年2月	必要に応じて院内学級を有しない市内総合病院で学習支援ボランティア活動を行う。													
実施する上で連携が必要と思われる団体と期待される役割	<table border="1" data-bbox="459 1319 991 1592"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>期待される役割</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岡山市教育委員会</td> <td>情報の共有</td> </tr> <tr> <td>岡山大学病院をはじめとする小児病棟を有する市内総合病院</td> <td>学習支援事業への理解及び学習支援場所の提供</td> </tr> <tr> <td>岡山市内の大学、教育医療福祉に関連する学部</td> <td>学習支援活動を行うボランティア大学生の窓口 講演会開催の紹介の場を設ける</td> </tr> <tr> <td>患者会・保護者会</td> <td>情報交換</td> </tr> </tbody> </table>	名称	期待される役割	岡山市教育委員会	情報の共有	岡山大学病院をはじめとする小児病棟を有する市内総合病院	学習支援事業への理解及び学習支援場所の提供	岡山市内の大学、教育医療福祉に関連する学部	学習支援活動を行うボランティア大学生の窓口 講演会開催の紹介の場を設ける	患者会・保護者会	情報交換			
名称	期待される役割													
岡山市教育委員会	情報の共有													
岡山大学病院をはじめとする小児病棟を有する市内総合病院	学習支援事業への理解及び学習支援場所の提供													
岡山市内の大学、教育医療福祉に関連する学部	学習支援活動を行うボランティア大学生の窓口 講演会開催の紹介の場を設ける													
患者会・保護者会	情報交換													
事業の展望及び今後の活動展開	<p><input type="checkbox"/> NPOがネットワークを構築し、他団体と連携し実施することを目指す。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 岡山市の一般施策としていくことを期待する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 次年度以後も協働での実施を希望。</p> <p><input type="checkbox"/> その他（ ）</p> <p>具体的な目標（計画）があれば記載してください。          小児慢性特定疾病自立支援事業の実現を目指す</p>													

(様式第3号)

## 協働事業収支予算書

<b>提案事業名</b>	慢性疾病を抱える子どもの自立を目指す学習・復学支援および交流・社会体験を支援する場 「ポケットスペース」
--------------	---

### <収入>

費目		金額	内訳
自己資金等	申請団体 自己資金	300,000円	
	合同提案団体 負担金等		
	自己資金等合計(a)		300,000円
事業収入見込	講演会参加費	40,000円	80人(大人)×500円 20人(子ども)×0円
	事業収入見込合計(b)		40,000円
岡山市補助金申請額(c)		1,360,000円	
収入合計(d)=(a)+(b)+(c)		1,700,000円	

### <支出>

費目		金額	内訳
事業実施経費	人件費(病弱児への学習支援指導)	600,000円	① 1人×4時間×10日×10ヶ月×1,500円
	人件費(ボランティアコーディネーター)	500,000円	① 1人×5時間×10日×10ヶ月×1,000円
	学習支援ボランティア交通費	240,000円	① 3人×10日×10ヶ月×800円
	使用料(学習支援会場)(マスカットキューブ)	10,160円	① 4時間×10日×2ヶ月×127円
	〃 冷暖房費込	65,280円	4時間×10日×8ヶ月×204円
	印刷製本費(事業案内チラシ)	30,000円	①・③ チラシ印刷費
	消耗品費(教材)	80,000円	① 教科書ガイド 32冊×2,500円
	報酬費(講演会講師)	60,000円	③ 副島先生 30,000円、小田先生 30,000円
	交通費(講演会講師)	27,060円	③ 東京⇄岡山新幹線、市内交通費
	使用料(講演会場)	6,128円	③ マスカットホール 4時間×1,532円
	文具等消耗品	9,372円	①・②・③
	通信運搬費(講演会案内送付)	20,000円	③ 250円(250g以内)×80通
	印刷製本費(アンケート調査票)	10,000円	② 印刷費、コピー用紙代
事務処理のための人件費	32,000円	② 1人×2時間×2日×10ヶ月×800円	
事業実施経費合計(e)		1,690,000円	
管理運営経費	食糧費(会議)	10,000円	茶葉購入費 10回×1,000円
	管理運営費合計(f)		10,000円
総事業費(g)=(e)+(f)		1,700,000円	※収入合計(d)と同額

- (添付書類等) 1. 人件費等については、積算の根拠(これまでの実績や独自の単価表)を添付すること  
2. 参加料などの事業収入を見込む場合は「事業収入見込」欄に計上すること